

令和4年度第2回古賀市健康づくり推進協議会意見集約（要旨）

1. 開催日 令和5年2月15日～令和5年3月3日

2. 開催場所 書面会議

3. 会議概要

1. 報告事項

- 1) ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次）・古賀市食育推進計画）に関する令和4年度の取組について
- 2) 令和4年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について
- 3) アンケート調査実施及び回収状況について

2. 協議事項

- 1) ヘルスアップぷらんの推進にあたり、事業の内容の充実を図るためのご意見や情報等について

4. 議事概要

- ・健康づくり推進委員会での協議事項における令和4年度取組状況について（資料1）
- ・ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次））の推進状況について（資料2）
- ・食育推進計画の推進状況について（資料3）
- ・次世代の健康【学校との取り組み】（資料4）
- ・健康チャレンジ10カ条の推進状況（資料5-1）
- ・広報こが（令和4年9月号）「健康チャレンジ10か条（まもる・たのしむ）」（資料5-2）
- ・広報こが（令和5年1月号）「健康チャレンジ10か条（たべる・うごく）」（資料5-3）
- ・高齢者の健康づくり【高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施】（資料6-1）
- ・広報こが（令和4年10月号）「高齢者の健康づくり（フレイル予防）について」（資料6-2）
- ・人材育成と地域づくり（資料7-1）
- ・健康づくり啓発事業【健康測定】実施状況（資料7-2）
- ・広報こが（令和4年9月号）「ヘルス・ステーションの活動紹介」（資料7-3）
- ・特定健診・がん検診の実施状況について（資料8-1）
- ・特定健診・特定保健指導の実施状況について（法定報告）（資料8-2）
- ・ヘルスアップぷらん(古賀市健康増進計画（第三次）・古賀市食育推進計画)策定にかかる市民アンケート調査の実施について【回収状況】（資料9）

5. 意見の取りまとめについて

ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次）・古賀市食育推進計画）に関する事業の推進状況を確認いただき、委員 11 名から意見があった。

（各委員からのご意見）

取組	内 容
<p>たべる</p>	<p>○子どもたちへの食育と育てる親への食育 子どもの食育について、朝食をとらない子や習慣化していない子、偏食がひどい子等子どもの食事の課題は色々あると思う。最近では、大豆ミートや食物繊維入りの加工肉など、美味しく食べられる健康食品も出てきている。簡単に取り入れられる食品の紹介もしてはどうか。</p> <p>○食進会の活動の発展を期待 令和 4 年度に大型紙芝居（減塩）が完成。粕屋地域の食進会総会でも実演した。作るきっかけは、市内保育園・幼稚園に出前講座に行くときに活用したいとの思いがあり、現役の保育士さんにもアドバイスをもらって原稿を何回も書き直し作成した。出来上がってみると大人が観ても十分な内容。ヘルス・ステーション、シルバー人材センター、福祉会、シニア連等の集まりでも活用して欲しい。</p> <p>○学校等でのこどもへの食育の取り組み拡大を期待 みそづくりや魚のさばき方講座も全校で取り組むと児童生徒の食に対する関心が高まって、やがて成人した時に健全な食生活を送れる市民になれると思う。防災食づくりは親子向けの出前講座でおすすめ。保護者と一緒に幼児も体験でき「おいしい、簡単！」と保護者の評判も上々。全年代に対応可能。</p> <p>○次世代に対して、SNS 等での情報発信は今後とても有効 Youtube でのレシピ動画とあるが「古賀市けんこうチャンネル」のことか。資料に QR コードが示されているともっと分かりやすい。次世代に対して、SNS 等での情報発信は今後とても有効だと思われる。</p> <p>○地産地消の推進はどのように進めていくのか 魚食の推進事業を実施予定とあるが、古賀市には漁協組合がない中、どのように進められるのか興味がある。</p>
<p>まもる</p>	<p>○健診や保健指導の実施率向上の方法及び効果は 【資料 8-1】健診、検診毎の利用者数が示されている。年度ごとの数値の大小を見たらよいのか。参)R3 実績と令和 3 年度の数値との違いは何か。年度ごとの数字に大きな動きがないということは、毎年、同じような顔ぶれが受診しているのか。資料の数値だけから何を読み取るのか解釈は少し難しかった。書面審査の限界か。 【資料 8-2】特定健診の受診率の経年推移をみると、受診率が増加傾向を示している。</p>

まもる

どのような方法が効果をもたらしているのか。特定保健指導の実施率も県平均、国平均をはるかに超え、その高い実施率は、どのような活動の効果なのか。健康課題の改善にもつながっているのか知りたい。

○健診（検診）未受診者の課題整理と対策の検討が必要

健診（検診）未受診の人に対して、健診（検診）を受けてもらうための対策は今後どのように行っていくのか。介護予防と同様にその必要性を感じていない人も地域にはまだまだいるだろう。健診（検診）会場へ行くことができる交通環境の課題や本人の意識等さまざまな要因が考えられる。

○特定健診等の会場を地域にアウトリーチ

特定健診等の受診率をアップさせるアプローチとして、会場が一律にサンコスモとなっているので、会場を区の公民館や小学校を活用してはどうか。受診率の高い自治体の取り組みに学ぶのもよい。

○健康測定は実態把握と共に開催目的と数値的な評価の視点を持つ

インボディだけで何人、骨密度で何人、年齢構成は、性別はどのようになっているのか、経年的にはどのようになっているのか、市民の反響の実態が分かるとよい。また、測定するだけでなく、測定後低かった人への対応などが資料に記載されるとさらに良い。

【資料 7-2】年度単位に実施回数と人数が示されているが、何を測定して、どのような人が利用して、その結果として、どのような結果であったのか、また、どのような事後対応をしたのか等は、加える必要はないか。

これらは、ヘルスアッププランの事業の推進の一環として行われていると思われる。その意味でも、どのような人たちを対象に活動して、どれくらいの利用があつて、ヘルスアップへどのように効果が期待できるかなど、開催目的とその数値的な評価の視点をもって、事業の数値をまとめると、数値の扱い方が変わるのではないかと思った。

○スポーツ団体へのポピュレーションアプローチ

一昨年、登山協会の月例登山の最中に高齢男性が心臓疾患で亡くなった。スポーツ協会に所属している会員の多くは高齢者である。スポーツ協会と連携して、全てのスポーツクラブに出勤講座（測定と講話）を位置づけ、健康意識のグレードアップを図ってはどうか。

○健康測定後には結果説明

インボディ測定について、事業（健康福祉まつりやゴルフ大会など）のよっては測定対象者への結果説明が十分できていないのではと感じる。年1回測定と説明により自身の健康課題に気づくことから測定を継続する意識が付き、効果も上がるのではないか。

○SNS 等を活用した測定実施の周知

古賀市の公式 LINE アプリでの運用が始まった。例えば、インボディ測定会や骨密度測定会など、健康介護課からの配信の予定はあるか。

<p>まもる</p>	<p>○学校での測定の取り組みを全校での実施に期待</p> <p>小野小学校以外の多くの小学校で測定会を実施して欲しい。活動が継続的に行えるためにも、古賀市と大学との連携事業の中で大学が機器を貸し出していることや、機器を貸し出しするだけでなく、事業の評価等、何らかの協働している役割を担わせてもらえると事業の存続が可能になると思う。市が行う全ての事業は、実施報告も重要だが、事業の目的に対する評価が最も重要。子どもたちの健康の実態やその結果を踏まえた支援の状況等と合わせて報告するとよりよいのではないか。</p> <p>古賀市と大学の連携事業の一環としての小学生の骨密度測定会の実施をしているという位置づけがとても重要。</p>
<p>うごく</p>	<p>○若者から中高年の働く世代へのアプローチ</p> <p>TV番組で専門医が「今や、心不全パンデミックの真っ只中。病院は患者の急増でひっ迫状態！」と訴えていた。若者をはじめ、働く世代は自分の健康に目を向ける余裕がなく、暴飲暴食や運動不足に陥っているそう。市内企業に対して、従業員へ「ふくおか健康ポイントアプリ」登録を働きかけ、アプリの普及を図ると同時に出前講座の拡大・普及もしてはどうか。</p> <p>○地域における運動やスポーツ振興を推進</p> <p>中学校部活動の地域移行が求められ、やがて高校でも同様に地域への移行の流れが予測される中で、学校部活動の衰退を回避し、地域との連携を深め地域における運動やスポーツ振興を推進するチャンスと捉えるために、高校と中学校の部活動の連携や地域のスポーツ施設の活用を積極的に推進していくなどの方策を検討していく必要があるのではないかと考える。</p>
<p>高齢者</p>	<p>○女性の骨折予防や男性の孤立防止対策</p> <p>女性の骨折予防や男性の孤立防止などについても進めて欲しい。</p> <p>○介護予防サポーター活動の発展と支援継続</p> <p>介護予防サポーター活動では、全て継続することで効果があり、楽しく活動すれば長く続く。ボールピック、音楽サポーター講座等、コロナで活動が制限されている中、取材などの支援の対応により、活動しているサポーターの皆さんの活動意識が継続できたと思う。</p> <p>市民サポーターとして、様々な事業に関わって活動を続けている。担当課・係の皆様の気配りの効いた対応に深く感謝している。</p>
<p>人材育成と地域づくり</p>	<p>○市民を健康づくり活動に促すための情報整理</p> <p>養成講座の受講者の内訳は、性別、年齢別、参加動機別にどのような傾向があるか。中には講座に参加するだけの人もいるとのこと。養成講座に参加後、活動に登録する人の特徴など、より多くの参加者を活動に促すためのヒントが情報収集できているとよい。</p>

<p>人材育成と地域づくり</p>	<p>○ヘルス・ステーションや地域コミュニティでポピュレーションアプローチ 老人会や福祉会等の年間行事に出前講座を位置づけるなど、ヘルス・ステーションや地域コミュニティでポピュレーションアプローチを行って市民の健康への意識や行動を高める取り組みをして欲しい。例) 古賀市シルバー人材センター会員対象の健康測定会の実施</p> <p>○行政区の状況に応じた形での支援方法と活動継続のための課題整理 今年、ヘルス・ステーション設置取下げの手続きを行う地区が出たことは残念。その事情や課題は、丁寧に把握して、この地区だけの課題なのか、共通する課題なのか、せつかくの活動が中止に至らないように予防できる方法を考える必要がある。 情報交換会について、年に何度くらいこのような試みを行っているのか。とてもいいことだと思う。その集まりの結果、どのような気づきの機会になったのか。行政区の状況に応じた形での継続とはどのようなことか、今後の対応に何かヒントになることがあったのか等、表記すると活動の意義や効果として実感が伝わる。</p> <p>○地域のニーズに合わせた取り組みの推進とボトムアップ型の活動支援体制の構築 「ヘルステ」の取り組みについて、とても素晴らしい取り組みだと思う。今後の展開に期待したい。市からこれをやるように、という進め方（トップダウン的）よりも、各ヘルステから、それぞれの地域のニーズに合わせた取り組みを推進し、市がそれをサポートする（ボトムアップ的）、という体制ができあがるととてもよいのではいか。</p>
<p>その他</p>	<p>○全世代を対象とし、地道に取り組んでいくことが大事 全世代を対象に、あらゆる場や機会を捉えて健康づくりの発信や取り組みを行っているので取り組みの内容や質、量等の方向性は間違っていないと思う。今後も地道に取り組んでいくことが大事だと思う。令和5年度からはコロナの縛りから解放され、日常を取り戻していくことになる。これまでの取組（対面実施）が活発に出来るようになり、市民の健康意識も高まっていくことが期待できる。</p> <p>○健康づくりに対する広範囲の事業や取り組みに感銘 予防健診課から健康介護課に組織が変わり、健康づくりに対する広範囲の事業や取り組みについて感銘を受けた。</p> <p>○コロナ禍が収束した後、さらに活動の成果が上がることを期待 この2～3年、COVID-19の感染拡大禍にある中で対面での活動も十分できず大変だったと思う。そのような状況下、よく頑張ってください、様々な取り組みを推進していることが理解できる。今後、コロナ禍が収束した後、さらに成果が上がることを期待している。</p> <p>○健康づくり推進や介護予防推進等の取り組みの良さを積極的に発信 古賀市の健康なまちづくりの一環としての健康づくり推進や介護予防推進等の取り組みの良さを積極的に発信してはどうか。 例) 取組に参加した人の体験談等を発信するLINEアプリ「古賀市健康つどいランド」の開発 広報こがに「健康づくりページ」を設置</p>

その他

○GIS は方向性を定めて分析を

GIS は、分析方法によって多様に分析できる可能性があるツールであり、市民と地域の課題について検討するのにもとても有効である。しかし、いつ、誰に対して何のために何を見せるか等、的を絞って行わないと作業が広がるばかりになってしまう。方向性を定めて分析をすることが必要。

○目的と評価を明確にし、数値化、客観化することを意識して

沢山の事業を少ない職員で本当によくやっているといつも思う。事業のスクラップ&ビルドも必要だと言われているが、なかなか難しいだろう。でも、少なくとも実施する事業については、目的と何をもって成果を評価するのかの視点は計画段階から明確にし、こまめに事業実績を積み上げ、評価に繋げていくことができるように仕事をまとめておくとよいのではないかと思う。全てのことをまとめることは難しいかもしれないが、数値化、客観化することを意識して仕事をする必要があると考える。

以前、KDB のデータを利用し、糖尿病予防教室参加者のヘモグロビン A1c の値が維持改善できている人が、教室に不参加者に比べ有意に多い等の数値を確認し、古賀市に報告した。KDB、GIS 等、いろんな実態を数値化し、可視化できる状況になった今は、仕事の成果を見せる化させる時代の到来だと私は考えます。頑張ってください。

○大学との連携しての取り組みの効果検証（データ解析等）

これまでも色々な取り組みをされていたと思う。もし、その取り組みの効果検証として、データ解析が必要な場合は大学へお声かけを。

○アンケート回収不良の層の要因分析と対策の検討

コロナ禍、よく頑張っていて取り組んでいると思う。

アンケート回収不良の層、特に幼児保護者などに対する回収不良の要因分析、対策などが望まれるかと思う。

以上